

日本医師会若手会員と 自民党青年局との意見交換会開催

四月二十七日、自民党本部において「日本医師会若手会員と自民党青年局との意見交換会」が開かれた。若手医師と、今後の医療政策を担っていく国会議員との意見交換を主眼に置いたこの会合は、平成二十七年の七月に続いて第二回の開催。

今回は自民党青年局から人数を絞って会を行いたいとの提案があり、日本医師会将来ビジョン委員会のメンバーを中心とした若手会員と、青年局（四十五歳以下の議員から構成される）所属議員との意見交換会となった。鈴木馨祐青年局長（衆議奈川7区、3期）と自見はなこ青年局次長（参比例、1期）の呼びかけにより二十三名の国会議員、十七名の医師会員が出席した。

佐々木紀青年局団体部長（衆石川2区、2期）の司会のもと開会し、鈴木青年局長および山



意見交換会



懇親会

口泰明組織運動本部長（衆埼玉10区、6期）が挨拶を行った。続いて、医師会を代表して横倉義武日医会長（日医連委員長）、今村聡日医副会長（日医連副委員長）が挨拶した。横倉会長は、会の開催について双方の出席者に謝意を述べたうえで、同世代の国会議員と医師会員が活発に意見を交換し合える場となるよう、とくに医師会員からの積極的な発言に期待を示した。

国会議員・医師会員それぞれが、自己紹介ののち、佐原博之医師会将来ビジョン委員長が、医師会の活動や医療界を取り巻く環境について説明を行った。医師会の沿革・概要をはじめ、日本とアメリカの医療の違い、現時点での課題と今後の展望等に関して、医療政策も絡めながら、資料を用いて説明した。とくに混合診療の全面解禁については、国民皆保

意見交換に入ると、双方から発言が相次いで活発な議論が広がった。依然としてさまざまな課題が山積しているなか、かつまた診療報酬・介護報酬の同時改定を年末に控える時期にあつて、「社会的共通資本」として

険制度を形骸化させ、さらなる医療崩壊を招きかねないことから医師会として強く反対している点を、長く時間を割いて身近な例とともに説明し、国会議員の理解を促した。

の医療を保護していくために必要な施策に関して、意見を交わし合った。

第一部が盛況のうちに閉会となり、場所を移して懇親会が行われた。中泉松司青年局団体副部長（参秋田、1期）が司会を務め、鈴木青年局長・釜沼敏日医常任理事（日医連常任執行委員）の挨拶に始まり、自見青年局次長が乾杯に立った。懇親会からの出席となった国会議員も懇談に加わり、終了時刻いっぱいまで熱い語らいが続けられた。

に至りませんでした。死因究明等の推進に関する法案の参議院政策審議会での説明者にご指名いただきました。成育基本法議員連盟では事務局次長として、事務局長の羽生田俊先生とともに秋の臨時国会に向けて活動を活発にして参りたいと思います。加えて一月に事務局長として女性医療職エンパワメント議連を設立しました。今年に入り加速している働き方改革の波や、医療経営を支える財政基盤の安定化などの課題と、医療界を支える構成員の女性比率が急速に増えていることは密接に連動しており、全体のバランスを考えた議員立法の提出成立を目指しています。その他、骨髄バンク議連の事務局次長を拝命し、法案成立後三年の見直し時期を迎えドナー登録の伸び悩みや諸課題の解決に向けて活動しております。議員勉強会としては、救急車の出動要請が増加していきなから、地域包括ケアや在宅や終活なども視野に入れた救急医療体制の勉強会と、医師のキャリアアップデザイン、とくに今年が平成三十二年度からの初期研修の見直しの案を決める時期であるた



参議院議員 自見はなこ

永田町トピックス

参議院議員の自見はなこ先生から、ご寄稿をいただきました

「第193回通常国会を終えて」

参議院議員 自見はなこ

今年一月から開会した第百九十三回通常国会が、六月十八日をもって閉会いたしました。委員会質問は一般質疑、精神保健福祉法、次世代医療基盤法、地域包括ケア改正介護保険法、医療法の一部改正法、厚生労働省設置法の一部改正法、児童福祉法改正など、昨年十一月からは通算九回にも及びました。受動喫煙防止法案は、政府からの法案提出に至りませんでした。秋の臨時国会に臨みたいと思えますので、引き続き強力なご支援をお願い申し上げます。



厚生労働委員会で発言

自民党内では昨年の秋の税制改正から、年明けから三月までの予算案大詰めが始まり、六月の政府の『骨太の方針2017』の閣議決定に至る党内議論にまで関わることができました。また議員立法では、会期中に提出



（左から）大沼みずほ参議院自民党副幹事長、高階恵美子女性局長、自見はなこ女性局次長、丸川珠代五輪担当大臣、橋本聖子参議院自民党議員会長

め、厚労省と文科省を結ぶ議員勉強会を主催し先輩議員のご指導をいただいております。

今後は、医療ICTのなかで、医療情報システムの安全性を国として向上、担保する仕組みも必要であるとの観点から勉強会を立ち上げようと思っております。

我々医療界は、さまざまな課題があるなか、とくに本年は年末に六年に一度の医療、介護のダブル改定を控えております。横倉義武委員長をはじめとした日本医師連盟の先生方のご経験と英知によって、オールジャパンで乗り切っていきたいと思っております。今後も、羽生田先生と連携を取りながら国会活動に努めて参りますので、引き続きのご指導ご鞭撻をいただきますように心からお願ひ申し上げます。

※次号、参議院議員羽生田俊先生より、ご寄稿いただく予定です。